20210328レムナント教会1部

**カナンの正体(絶対契約) (ヨシュア4:19-24)**

　イスラエルの民が40年間の荒野の生活を終えて、カナンの前まで導かれました。そこで神様はイスラエルの民がヨルダン川を渡るようにされます。祭司が担いでいたその契約の箱がヨルダン川に入ったとき、川が真っ二つに分かれて、紅海を渡ったときと同じように乾いた地のようにヨルダン川を渡り、カナンの地に入っていきました。そのときにヨルダン川底にあった石を部族ごとに一つずつ取り上げて持ってくるようにし、それを記念碑として立てるようにします。その理由は、後にこのことを全く知らない子どもたちが「この石は何ですか」と聞いたら、「神様が約束通りに私たちをこのカナンの地に導かれたそのしるしなんだよ。神様が神の力によって紅海を渡らせたのと同じように、ヨルダン川もそのように私たちを導かれたのだよ」ということを話して神の栄光をたたえるためのものでした。そのために各部族ごとにひとつずつ、ヨルダン川にあった石を持ってくるようにしたわけです。イスラエルの民がカナンの地に到着した、そこに入っていくようになったということは、今の私たちにどのようなメッセージなのかということを考えていきたいと思います。そこで、信仰生活においてとても重要な項目は何なも確認していきたいと思います。

　イスラエルの民が40年間の荒野の生活を通してカナンの土地に入っていくようになったということは、

1.神様の契約、神様のみことばは必ずその通りに成就されるということを明らかに教えられたことです。

これがカナンの正体です。カナンの地は約束の地と言われていたものです。その約束の地に本当は不可能だとしか思うことができないその状況を通って、結局は約束通りにカナンの地に入ってきたのではないかという話なんですね。それでカナンというのは、神様の口から出た神のみことば、特に神の契約というものは絶対的なものなのだ、神の契約は絶対契約だということを教える場面です。神様は人の予想や人の計算などを裏切り、それをひっくり返して約束を成就される方です。実はイスラエルの民の過去を振り返ってみると、今このカナンの地に立っていることは考えられない、信じられないことではないでしょうか。彼らは400年間もエジプトの奴隷の生活をしていました。そこから今のカナンの土地ということは結びつかないのです。考えられないのです。しかし、彼らは今カナンの地に立っています。それから、エジプトから神様の奇跡によって出エジプトした後も不信仰によって荒野の道を40年間も歩いていました。先週も申し上げましたように、荒野は人が暮らせるようなところではありません。普通には生きていけない所です。しかし、その荒野の40年間を通って、今カナンの土地に入ってきてそこに立っているのではないでしょうか。そして、その荒野を通るときには、環境、自然の条件だけが問題ではなく、敵も待ち構えて邪魔するところでもあります。その代表的な部族がアマレクという部族ですが、そのような敵によって道がふさがれるような所でもありました。それから、一番の問題は、周りの環境も条件も問題でしょうけれども、イスラエルの内部の問題が一番の問題です。皆さんご存知のように、イスラエルはことごとく不信仰、不平不満に走り、ときには偶像崇拝にすぐもどる経歴の持ち主なのです。その内部の不信仰、神に敵対するような品性、習性などを捨てることなくずっと持ち続ける者でした。そのような状態で約束通りにカナンに入っていくということは考えられません。にもかかわらず、今現在、ヨルダン川を渡ってカナンの地、約束の地に到着して、そこに足を踏み入れているということが今日の聖書のお話です。なのでカナンに到着したこと、カナンというものの正体は、神の約束、神の契約は絶対的なもので、言われた通りに何があっても、何が何でも必ず成就されることを知らるものです。

しかもヨルダン川を渡ったということは、一番の象徴的なメッセージでもありますが、

2.その神の契約は人間の予想がどうであれ、周りの邪魔がどうであれ、神様ご自身の力によって、神様ご自身の方法をもって成し遂げられるものだということをカナンを通してイスラエルの民の胸に刻み込まれました。

これがカナンの正体です。私たちはいつも人のレベルや自分自身がすべてであるかのように縛られて制限されて生きていくものです。その習性が身についているのです。しかし、カナンの正体を通して、私たちが神の民である以上、それをはるかに超える神の契約、神のみことばに注目していかないといけないものです。

　そして、カナンに到着したというのは、カナンが約束の地であることに間違いありませんが、カナンがゴールではありません。

3.カナンという正体は、その約束の地の主人公として約束されていたキリストの契約、救いの契約は必ず成し遂げられるのだということに釘をさす事柄です。

それがカナンの正体です。それを前もってあらかじめ預言していらっしゃるのです。

創世記3：15、女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み砕いて、キリスト、メシヤが来られることによって、絶対不可能な罪人がその罪から助かって神の子どもとなりいのちが得られる、それ以外には方法も道も希望もありません。神様はそれを約束して、それを通してあなたがたを救われると契約をなさいました。その契約が到底その通りになりそうに思えないのです。イスラエルがエジプトの奴隷となっていたように、荒野の40年間を通っていたかのように、またイスラエルの内部の敵対することと不信仰などを見て不可能に思われるしかありません。しかし、カナンに到着しました。ヨルダン川を乾いた地のように渡って、カナンの方に入っていきました。足を踏み入れました。約束はその通りに成就します。キリストの約束はその通りに成就されるということを動かない事実として釘をさす場面です。この後のイスラエルは、実は皆さんご存知のようにその王国が南北に分かれることになります。北のイスラエル、南のユダ、そして、その北のイスラエルがアッシリヤの捕虜になり、それから政略的な結婚などを通してみな血が混ざるようになってしまいます。また、南のユダもバビロニヤの捕虜にされます。もちろん南も北も偶像崇拝に溺れ、どんどんその偶像崇拝が強くなっていくことが歴史のすべてでした。その結果、イスラエルの歴史の最後は、400年間の暗黒の時代と言われるような時代を迎えることになります。そこでどこに希望が見えてくるのでしょうか。どのようにして約束のキリスト、世の光と約束されたイエス・キリストが来られることができるのでしょうか。そう思うしかない状況がずっと続いていました。にもかかわらず、イザヤ7：14、処女が身ごもっている。男の子を生む。その名をインマヌエルと言いなさいと預言されていたその預言がその通りに成就して、マタイ1：23を見ますと、処女マリヤが身ごもって、そこでキリストであるイエス様が生まれるようになります。キリストの約束が成就されます。到底不可能な状況ばかりだったのに、その人間の予想、不可能な状況などをはるかに超えて、神の契約、救いのキリストの契約はその通りに成就しました。それをあらかじめ預言したものがカナンへの入城なのです。特にマタイ1：20を見ますと、処女マリヤが聖霊によって身ごもったと言われています。神の力によって神様のやり方、神様の方法によって、人の予想やすべてのことを裏切って、神様の約束はその通りに成就されます。これがカナンの正体です。皆さん、何を根拠にして、何を頼りにして、何を基準にして自分の人生を考え、またこれからの人生を生きて行こうとしていらっしゃるのでしょうか。それが神のみことばなのでしょうか。何が何でも絶対に成就されるしかない神の口から出る契約、そのみことばに立っているのでしょうか。あるいは自分の思い、自分のレベルなのでしょうか。カナンは今を生きる私たちクリスチャンに向かってこのようなメッセージを語っているわけです。見なさいよ。人はこうだ、ああだ、いろいろ言うかもしれません。また、人の基準、レベルから見たときにはできないよ。ああだよ、こうだよといろいろなことが思われ、また言われるかもしれません。しかし、何がどうであれ神が約束されたことであれば、神の契約であれば、それは必ずその通りに成就されます。何を人生の軸にして、人生の力にして、人生の頼りにして生きていくべきなのかと問いかけていらっしゃいます。世の中のすべては変わります。しかし、宇宙のどこがどのように変わっても神の契約は変わることはありません。それだけが希望なのです。いま世界中がパンデミックの困難の中を苦しみつつ、騒ぎつつ歩いています。しかし、神の契約は変わることはありません。今も成就しつつあります。それこそがクリスチャンの希望であり、クリスチャンの自負であり、クリスチャンのよりどころです。だから、クリスチャンは倒れません。落胆しません。何も思い煩わないで主を見上げつつ祈るようになります。怖くてしょうがないから神様と叫ぶ祈りもあるでしょうけれども、そういった祈りではありません。すべてに優る神の平安があなたがたを守ってくださるだろう。絶対契約を握るから、皆さんがどのような弱さを抱えて、ときには倒れることがあっても、それによって神の契約が変わることなどありません。なのでその失敗の中でも神の契約を握るわけです。それがカナンの正体です。

約束通りにこの地上に来られて救いのすべての契約をすべて全うされ、十字架の上ですべて完了したと宣言され、それから3日目に復活なさってよみがえられた万軍の主、イエス様を通して世界福音化の契約を成し遂げていらっしゃいます。

4.その復活なさった万軍の主、イエス・キリストにより行われる世界福音化の契約は必ずその通りに成就するということをあらかじめ知らせたものがカナンというものなのです。

必ず世界福音化は世界がどう変わろうが、世界中の国々がどのように立ち上がって反対しようがその通りになります。それを信じることを信仰と言います。気持ちによって、状況によってふらふら左右されるものは信仰ではありません。イエス・キリストがよみがえられておっしゃいました。聖霊が臨まれると力を受けて、エルサレムから地の果てにまでイエスの証人となると世界福音化を約束されました。そして、その世界福音化は今までと同じように、いつも通りに神の力、神の方法によって、つまり、聖霊の力によって成就されていくものだとおっしゃいました。しかもその世界福音化は先に救われていのちが得られた教会、信者を通して、これが神様の方法なのです。世の中から見たときには無知な者、愚かな者、そして、汚れた者のように思われるかもしれません。しかし、その教会、信者を通して、その信者、教会を証人として立てて世界福音化は全うされていくようになります。特にこの世の誰でもできない霊的ないやしを通して、特に次世代をサミットとして立てることによって、そして、世界中に弟子を探して立てることによって、これが神様のやり方、神様の方法です。神様の力によって神様のやり方で世界福音化の契約は必ずその通りに成就されるしかないのだということをカナンの到着を通してあらかじめ今を生きる私たちに知らせていらっしゃるということです。当時のイスラエルの民もこれに気づかないといけないものだったのですが、ほとんどの人が気づきませんでした。しかし、今はよみがえられたイエス・キリストを通して聖霊が宿る存在になりましたので、この昔のカナンの到着を通してでもこのような神の契約のことが分かる幸いな者になっているということを感謝しましょう。これがカナンの正体です。ちっぽけな自分が基準ではありません。だから、聖書は、古きものは過ぎ去ったので、この神を知らないでいた自分はもう十字架とともに死んだので、それを認めなさい。自分の自我を捨てなさいと勧めているわけです。それは否定的な意味ではありません。神の契約こそが絶対なので、その契約の中に召されている者だからこそ自分はいらないわけです。結局、邪魔は環境も条件でもありません。自分が邪魔なのです。自分の思いが邪魔なのです。

神様の恵みによりここにいらっしゃる皆さんはイエス様を救い主として心に信じて受け入れました。イエス様をキリストだと告白する信仰を持つようになりました。それはもちろん神様の恵みなのです。しかし、イエス様を信じたのにもかかわらず、弱い自分自身がいて、またいろいろな困難がそのままであり、聖書で言われた通りに伝道したいのになかなかその通りにいかないし、逆に落胆するときも多いかもしれません。しかし、そういったすべてを正しくコントロールするためには自分がイエス様を信じたということがどういうことなのかをまず正しく理解しないといけません。それは単に皆さんが困っていたので「イエス様、助けてください」と信じたことではありません。そういう経緯はあったかもしれませんけれども。あるいは親に連れられて自分も知らずに、自分の意志と関係なく教会に通うようになった、私は何なのかと思っているかもしれません。

しかし、人間がイエス様を救い主として信じるということは、神様の契約が成就したことなのです。

単なる皆さん一人に気持ちとして起きた症状ではありません。神の契約がすでに皆さんに成就されたのでイエス・キリストを信じることになったわけです。女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み砕く、そのキリストを信じることによって、誰でも永遠のいのちに預かるようにするよと神様が約束したその約束、世界の基が置かれる前から計画なさっていたその神の契約が成就されたことなのです。

自分自身を振り返って考えてみたら、本当はイエス様を素直にありがとうございますと受け入れるような人間ではありません。正反対なものではなかったのではないでしょうか。何をどう考えても不思議で不思議でしょうがないことではないでしょうか。なのに、とにかく、今現在、イエス・キリストを信じて心から告白しています。それは神の契約が邪魔されることなく、何がどうであれ絶対に成就された一番のあかしであり、その結果だということを覚えていてください。そこからスタートしないといけません。

　ならば、自分の感情やどうのこうのの計算など、自分の弱さや能力がどうのこうのなどを後にして、これからは絶対その通りになるしかない神のみことばを契約として握ること、それに集中すべきではないのか。それを優先にして残りの人生を生きて行こうじゃありませんか。それに正しく結びつけるようにしていただきたいと思うのです。信者として自分が行うべき最高に重要なことは神のみことばを握ることなのです。なぜなら自分の思いは変わるかもしれません。夢もその通りにならないのです。なったとしても成功でもありません。しかし、唯一、この宇宙の中でその通りに絶対に成就されるものは一つしかありません。神のみことばです。それが証明されたのが皆さんがイエス・キリストを信じたです。どのようにしてイスラエルから遠く離れていた私たちが、偶像だらけのこの国の中で、最初からイエス・キリストのお話を聞くと機嫌が悪くなるような人間だったのに、なのになぜ今ハレルヤと賛美をしながら礼拝の場に来ていらっしゃるのでしょうか。神の契約が成就されたからです。みことば通りになったのです。そこをいつも思い起こしていただきましょう。

ならば、これから残りの生涯、私の人生の軸になるものは自分の感情でもなく、自分の意地でもなく、人の言うことでもなく、世の法則でもなく、神のみことばをいのちのように握るべきなのです。そこにすべてがあります。周りからなんと言われようが、その通りになるわけですから。また、自分のレベルで考えたときにこれは到底理解できないなというようなこともあるかもしれません。しかし、それは自分のレベルであって、皆さんがイエス・キリストを信じたのではないでしょうか。今までの歴史を振り返って少しでも考えてみてください。何一つ神のみことばがその通りに成就されるために協力した者はいません。にもかかわらず、その通りになります。それが神様なのです。神様は人のような存在ではありません。神様は神様なのです。ヤーウェの神様なのです。自らいらっしゃる方なのです。ご自分の約束を必ず成就させる方です。自分のレベル、感情、計算などを捨てましょう。みことばをありのまま信じること、それに気を遣うようにしましょう。

そのために具体的には神様のみことばの中ですでに成就されているものがあります。キリストは皆さんの内側にきていらっしゃいます。そのことによってキリストを受け入れるとどうなるのかと言われていることばがあります。その約束はすでに成就されているものなのです。ですから、すでに成就されていることばをその通りに信じる信仰を持ちましょう。そうすると、皆さんはいやされます。それをいやしと言います。皆さんの思いや今まで習ってきた経験などを相手にせずにもうすでにキリストによって成就されていることはその通り認めて信じることによって、皆さんは内側から霊的にも精神的にも思い、考えがいやされるようになります。そして、そうすることによって、いわば24時の人間になります。

　それから、その信仰を持つがゆえに、神様がこれから成し遂げられる、これから成就されていくみことばがあります。それを信じる信仰に立つことです。そうするとその人は険しい荒野のようなこの世の中を歩きますが、正しく神様に導かれる人生を歩くようになります。人生いろいろなことがあります。予想だにしなかったいろいろなトラブルに巻き込まれることもあります。けれども、完璧に神の導きの中を歩くようになります。そうすると、ヨルダン川が分かれたように、紅海が分かれたように、神の奇跡が伴なわれる人生を歩くようになります。約束します。これから成就されるみことばを信じることです。それはいわば25時の祝福というわけです。難しいことは何もありません。今までなぜ人生が辛かったのでしょうか。なぜ困難だったのでしょうか。神のみことばを握っていないからです。神のみことばを信じる信仰に立っていないからです。宇宙の中で信じるべきものは一つしかありません。神のみことば、神の契約なのです。

そして、そのことがその通りになるために、神様は私たちに礼拝を許されました。なのでこの成就されているみことば、これから成就されていくみことばを講壇のメッセージを通していつも確認して発見していかないといけません。そして、そこで確認したものを個人の祈りのときに黙想して思い起こして告白していくこと、それがすべてです。それで皆さんはこの険しい世の中を奇跡の中を歩くような勝利者となるでしょう。その祝福がもうすでに皆さんのものであることを宣言しつつメッセージを終わりにしたいと思います。

（祈り）

恵み深い天の父なる神様。40年間の荒野の生活が終わって、いよいよカナンの約束の地に踏み入れることができました。神の奇跡、神の方法によって、神の約束、神のみことばは必ず絶対的にその通りに成就されることを物語っているものですので、それを通してキリストの契約、世界福音化の契約、神のみことばを改めて考えることができるように、それを握ってすがる勝利の人生、奇跡の人生を歩くことができるように兄弟姉妹ひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン